

研 究

乳児の気質と母親の育児不安との関連：
妊娠時の愛着表象を防御因子として高橋 靖子¹⁾, 瀬地山葉矢²⁾, 本城 秀次³⁾

〔論文要旨〕

本研究の目的は、子どもの気質の認知と育児不安との関連、それらに及ぼす妊娠時の母親の愛着表象の影響、および愛着表象と知覚されたソーシャルサポートとの関連について縦断的に検討することである。妊婦65名に対して Adult Attachment Interview (AAI) を実施し、妊娠時と産後6か月時に質問紙調査を行った。AAI 安定型の母親は不安定型の母親と比べ、出産後のソーシャルサポートが高くなった。また、育児不安と子どもの見知らぬ人や状況への恐れ、味覚へのこだわり、不規則な生活リズムといった気質特徴との関連が認められた。さらに、母親が乳児の活動性を低く、扱いにくい気質と捉えた場合には、安定型より不安定型の母親において育児不安が高まることが示された。安定型であることにより、乳児の難しい気質を認識しても育児不安と関連することなく、防御因子となりうることが明らかとなった。最後に、愛着表象の観点より、育児困難を感じている母親や家族に対する心理的援助について議論した。

Key words : 母親の愛着表象, 育児不安, 乳児の気質, 縦断研究

I. 研究背景と目的

現代の日本社会では少子化や出産の高齢化、核家族化が進み、多くの母親にとって出産前に子どもと関わる経験が少なくいうえに、周囲からのサポートを得られにくい状況にある。このような厳しい育児環境におかれた母親は、育児不安や抑うつ感が強まり子育てに悪影響を与える恐れがある¹⁾。

出産後の母親の精神的健康に関する要因として、幼少期における母親の辛い被養育体験や過去のネガティブな体験、精神的な脆弱性、ソーシャルサポートの低さなどが挙げられる^{2~4)}。O'hara ら⁴⁾は、妊婦自身の親との葛藤が強い場合には親となった自分に対して

両価的な感情を抱きやすく抑うつ感が高まること、そして現在の親との関係が良好でなければソーシャルサポートが得られにくくなると述べている。

また、養育者の要因だけでなく、子どもの気質が母親の育児負担感や抑うつ気分と関連する^{5,6)}。Honjo ら⁵⁾は、生後18か月時に母親が子どもの気質を難しい (difficult) と判断する場合、扱いやすい (easy) とした場合より育児ストレスが高まることを報告している。Sugawara ら⁶⁾による子どもの気質の調査では、生活リズムが不規則である、または周囲の環境の変化になじむのが遅い場合、母親の育児ストレスや抑うつ傾向が強まり、一層ソーシャルサポートが重要になることを示した。以上の知見より、母親が幼少時に受けた被

Relationship between Infant Temperament and Maternal Child-rearing Anxiety :

Attachment Representation in Pregnancy as a Protective Factor

Yasuko TAKAHASHI, Haya SECHIYAMA, Shuji HONJO

1) 上越教育大学臨床・健康教育学系 (研究職 / 臨床心理士)

2) 日本福祉大学子ども発達学部 (研究職 / 臨床心理士)

3) 名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター (研究職 / 医師 / 臨床心理士)

別刷請求先: 高橋靖子 上越教育大学臨床・健康教育学系 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel/Fax : 025-521-3343

[2563]

受付 13. 9.30

採用 14. 4. 7

養育体験や乳幼児期の子どもの気質の個人差が、産後の母親の精神的健康と関連することが予想される。

一方で、母親の重要な他者への愛着が、精神的健康や乳児の気質の認知・育児態度との関連を媒介するという報告がある^{10,11)}。例えば、Priel ら¹⁰⁾の研究では、出産前のパートナーへの安定した愛着が母親の胎児への愛着を高めており、さらに幼少期の自身の母親からの否定的な被養育体験が乳児を難しい気質とする評価に直接的な影響を及ぼしている。また、Pesonen ら¹¹⁾は、母親の抑うつが乳児に対する気質の認知にネガティブな影響を及ぼす一方で、安定型の愛着によって影響が緩和されることを示している。そこで本研究では、子どもが難しい気質であったとしても、母親の安定した愛着表象を媒介要因として母親の精神的健康の悪化が緩和されるかどうかについて検討する。

これらの調査においては被養育体験や愛着スタイルを測定する方法として、親や現在のパートナーに関する意識や態度を測定する自己報告式尺度が用いられてきた。しかし、実際の養育場面では、養育者の表面的な意識や態度だけでなく「赤ちゃん部屋のお化け」¹²⁾のような、自らの愛着対象からの被養育体験についての無意識的イメージ（愛着表象）が深く関与することが考えられる。そのため、本研究では愛着の測定法として Adult Attachment Interview (AAI)¹³⁾を用い、感情や思考などの意識・無意識面での情報処理を考慮しながら、被養育体験の内容よりも回想される際の態度を重視して評価を行う。

さらに、Bowlby⁷⁾は、不安定な愛着を持つ人自身にサポートを与えうる他者がいたとしても、その人の言動を歪めて解釈して自ら不適切な行動をとることで、自分が予測する否定的な方向に相互作用を導くと述べている。実証研究からも、パートナーから援助を受ける実験状況下で、愛着スタイルが不安定な人はソーシャルサポートの認識が低い⁸⁾、結婚して親になる過程で、愛着スタイルとパートナーからの気遣いに対する満足度が関連する⁹⁾といったように、愛着がソーシャルサポートの基盤となることが示されている。

そこで、本研究の第一の目的として、妊娠時の愛着表象と出産後の知覚されたソーシャルサポートとの関

連について検討する。第二の目的として、乳児の気質認知と育児不安との関連について検討する。第三の目的として、乳児の気質が難しいと捉えられた場合でも、母親の愛着表象が安定型であれば、愛着表象が育児不安の防御因子として作用するかどうかについて検証する。

II. 方 法

1. 調査対象

A 大学医学部附属病院産科を受診し、質問紙および面接の実施に応じた136名のうち、産後6か月時の質問紙に回答した65名の妊婦を対象とした。本研究は、母親のメンタルヘルスに関する縦断研究の一部¹⁴⁾であり、妊娠が確定した妊娠3・4か月時に開始して出産後3年までの調査を重点的に実施した。母親の面接については、誕生する子どもとの相互作用による影響をできるだけ統制する¹⁵⁾ため、妊娠時に実施した。

2. 手続き

妊娠12~20週にあたる妊婦に対して縦断調査に関する説明を行い、質問紙への回答、面接への任意による参加を求めた。主な倫理的配慮として、研究協力の諾否や中断が診療内容に一切影響しないこと、データは匿名化のうえで分析に用い、厳密に保管されることを伝え同意書に署名を得た。本研究はA大学医学部倫理委員会の承認を得ている（承認番号：173）。

各時期の調査内容として、妊娠中期の調査時には、母親の年齢・学歴、世帯年収といったデモグラフィック変数や妊娠の状況について検診の待ち時間に尋ね、その約1か月後の検診前後にAAIを実施した¹³⁾。産後6か月の調査時には、子どもの性別や出生体重などのデモグラフィック変数、育児不安尺度、ソーシャルサポート尺度、乳児の気質評価尺度からなる質問紙を郵送し回収した。

3. 調査内容

i. Adult Attachment Interview (AAI)

幼少期の両親あるいは代わりの養育者との被養育体験を思い出させながら、現在の評価について尋ねる半

注) AAIは、訓練を受けた第一・第二筆者、およびAAIの説明と演習を受けた臨床心理学を専攻する大学院生からなる調査メンバーによって実施された。面接開始前には調査協力者にいつでも面接の中断が可能であり、中断によって診療に不利益を被らないことを伝えた。また、面接終了時には感想を尋ね、心身の調子についてフォローアップを行った。AAIの実施によって直接に心理的混乱をもたらすことはなかったものの、面接中に体調不良で1名が中断し、抑うつや不安傾向の強い調査協力者1名に対して医療機関を紹介した。

構造化面接である¹³⁾。質問は、①乳幼児期における両親との関係を最もよく表現すると思われる形容詞とそれについての思い出、②両親から拒否されたり脅されたりしたことがあったか、③なぜ両親はそのようにふるまったと思うか、④両親と自分との関係は幼い頃よりどのように変わってきたか、⑤幼い頃の経験が現在の自分にどのように影響を与えているかといった項目から構成される。

面接は逐語記録に起こされた後に、親との愛情的な結びつき、拒否、役割逆転の有無などの“過去の愛着経験についての性質”、および親の理想化、怒りへのとらわれ、侮蔑、想起の困難、そして談話内容の一貫性といった“現在の心的状態”からなる16のスケールによって評定され、最終的には以下の4つのカテゴリーに分類される。すなわち、①安定自律型 (F型: 愛着関係に価値をおいており、描写や評価が一貫している)、②愛着離脱型 (Ds型: 愛着経験にほとんど価値をおいておらず、一般化された愛着についての表象も実際はエピソードと矛盾している、あるいは想起できない)、③とらわれ型 (E型: 怒りの表出や極端に長い語りで、現在も愛着関係に過剰にとらわれている)、④未解決型 (U型: 虐待や喪失の話になると意味づけや会話のモニタリングが著しく欠ける)である。

AAIの逐語録は第一著者と第二著者が独立評定を行った。両者は1999年にテキサス州立大学においてAAIの研修を受け、2001年にコーダー資格を取得している。評定者間の一致率は85.5%であり、不一致のデータについては話し合いによって一致させた。

ii. ソーシャルサポート尺度

子どもの父親、父親の家族、そして母親の家族の育児に対する協力の度合いに関する3項目について、“ほとんど協力してくれない(1点)”～“十分協力してくれる(4点)”までの4件法で回答を求めた。

iii. 育児不安尺度

母親愛着尺度 (Maternal attachment scale)¹⁶⁾の下位尺度である“Anxiety regarding child”を用い、“子どもとどう関わってよいかわからない”などの子どもへの関わりに対する不安に関する8項目について、“まったくあてはまらない(1点)”～“よくあてはまる(4点)”までの4件法による回答を求めた。

iv. 乳児の気質尺度

Revised Infant Temperament Questionnaire (RITQ)¹⁷⁾の日本語短縮版¹⁸⁾を用い、最近1か月の

乳児の行動の仕方について“ほとんど～でない(1点)”から“ほとんどいつも～である(6点)”までの6件法による回答を求めた。多くの項目には回答しやすいように目安となる時間や分量の数値が示されており、全くみられない行動については斜線を引くように求めて0点とした。その下位尺度は、①見知らぬ人や状況への恐れ (見慣れない人や新しい場所に対する警戒心の強さ)、②味覚へのこだわりのなさ (食べ物の質量の変化への適応の良さ)、③リズムの規則性 (食事や睡眠リズムが一日の生活で安定している)、④活動水準 (音や光による刺激への反応性の強さ)、⑤取り扱いやすさ (周囲からの働きかけによるなだまりやすさや機嫌の良さ)、⑥注意の持続性 (テレビを見たりおもちゃで遊ぶ時の集中力)、⑦触覚へのこだわりのなさ (おむつがぬれてもむずからない程度) から構成され、計53項目を分析に用いた。

III. 結 果

1. 調査協力者の概要

初回調査時の平均妊娠週数は18.84週数 (SD = 3.26, range: 13~22) であり、平均年齢は30.5歳 (SD = 4.5, range: 20~42) であった。妊娠時のハイリスク外来の受診者は対象者のうち16名 (24.6%) であり、その理由は高齢出産や合併症などによるものであった。出産6か月後の平均調査時期は、出産後194.6日であった。

母親の学歴の分布は、高校・専門学校卒20名 (30.8%)、短大卒23名 (35.4%)、大学卒21名 (32.3%) であった。妊娠を予定していた人は39名 (60.0%)、予定外だった人は10名 (15.4%)、どちらでもなかった人は10名 (15.4%) であった。

子どもの平均在胎週数は、39.0週 (SD = 1.5, range: 33~41) であり、平均出生体重は2,959g (SD = 375, range: 2,380~4,176) であった。性別は男子35名、女子29名、第1子は40名 (61.5%)、第2子以降が19名 (29.2%) であった。

これらの調査は、1998年9月より2004年11月にかけて実施された。

2. AAIの分類結果とAAIと他の変数との関連

AAIの逐語記録より母親を4つのカテゴリーに分類した結果、愛着離脱型が12名 (18.5%)、安定自律型が51名 (78.5%)、とらわれ型および未解決型がそ

表 1 各変数の全体および AAI 群ごとの平均値と *t* 検定結果

変数		全体				安定型			不安定型			<i>t</i> 値
		α 係数	N	平均値	SD	N	平均値	SD	N	平均値	SD	
育児不安		.69	65	15.26	3.57	51	15.04	3.25	14	16.07	4.62	-0.79
ソーシャルサポート		.63	64	9.00	2.25	51	9.27	2.28	13	7.92	1.80	1.98 *
乳児の 気質	見知らぬ人や状況への恐れ	.85	61	2.46	0.89	47	2.51	0.93	14	2.30	0.75	0.80
	味覚へのこだわりのなさ	.82	64	4.00	1.10	50	3.89	1.14	14	4.39	0.89	-1.53
	リズムの規則性	.78	65	3.52	0.93	51	3.54	0.92	14	3.44	0.97	0.38
	活動水準	.74	65	4.61	0.76	51	4.63	0.77	14	4.54	0.77	0.37
	取り扱いやすさ	.55	65	4.25	0.73	51	4.28	0.70	14	4.15	0.86	0.56
	注意の持続性	.63	62	3.22	0.95	49	3.36	0.84	13	2.69	1.20	2.32 *
	触覚へのこだわりのなさ	.61	65	3.73	1.12	51	3.80	1.10	14	3.48	1.21	0.97
* <i>p</i> <.05												

表 2 AAI 群と気質高低群ごとの育児不安得点および分散分析結果

	安定型			不安定型			主効果		交互作用		下位検定
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	AAI <i>F</i> 値	気質下位尺度 <i>F</i> 値	AAI × 気質 <i>F</i> 値		
気質の下位尺度											
見知らぬ人や 状況への恐れ	高	20	16.65	3.31	7	17.86	4.56	0.67	9.44 **	0.11	高>低 **
	低	22	13.77	2.76	7	14.29	4.23				
味覚への こだわりのなさ	高	26	14.81	3.24	10	14.60	4.03	2.57	7.19 *	3.18 +	低>高 *
	低	19	15.84	3.34	4	19.75	4.27				
リズムの規則性	高	21	14.14	3.15	7	14.00	4.08	0.92	7.83 **	1.19	低>高 **
	低	25	15.96	3.32	7	18.14	4.41				
活動水準	高	25	14.60	3.56	6	12.83	2.93	0.21	10.55 **	4.59 *	低：不安定>低：安定 *
	低	21	15.76	3.02	8	18.50	4.21				不安定：低>不安定：高 **
取り扱いやすさ	高	21	14.52	3.67	7	12.57	2.76	0.99	16.68 ***	8.77 **	低：不安定>低：安定 **
	低	25	15.64	3.01	7	19.57	3.15				不安定：低>不安定：高 ***
注意の持続性	高	25	15.36	3.12	3	14.33	4.16	0.01	0.46	0.76	
	低	20	15.10	3.55	10	16.40	5.04				
触覚への こだわりのなさ	高	19	15.37	3.80	5	16.80	5.59	0.83	0.43	0.10	
	低	27	14.96	3.03	9	15.67	4.30				

+ *p*<.10, * *p*<.05, ** *p*<.01, *** *p*<.001

れぞれ 1 名 (1.5%) となった。とらわれ型と未解決型の人数が少なかったため、これ以降の分析では安定自律型 51 名を安定型、残りの型 14 名を不安定型として 2 群で分析を行う。

表 1 に育児不安、ソーシャルサポート、乳児の気質下位尺度の平均値、そして AAI の安定型と不安定型のタイプ別の各変数の平均値を示す。2 群間で *t* 検定を行ったところ、不安定型に比べて安定型は乳児の気質の“注意の持続性”で有意に高く、出産 6 か月後のソーシャルサポートが有意に高かった (*t* (60) = 2.32, *p* < .05 ; *t* (62) = 1.98, *p* < .05)。

3. AAI と気質による分散分析

産後 6 か月時の育児不安に対する愛着表象と気質との関連を調べるために、気質の下位尺度得点を平均値 0、標準偏差 1 の *z* 得点に標準化し、0 点より高ければ高群、0 点以下であれば低群とした。そして、育児不安得点に対して AAI (安定・不安定型) と各気質の下位尺度 (高群・低群) による 2 要因分散分析を行った (表 2)。

その結果、“活動水準” および “取り扱いやすさ” において交互作用が有意となった (*F* (1, 60) = 4.59 *p* < .05 ; *F* (1, 60) = 8.77 *p* < .01)。有意となった項目において、単純主効果の検定を行ったところ、不安定型で子どもの活動水準が高い場合より低い場合

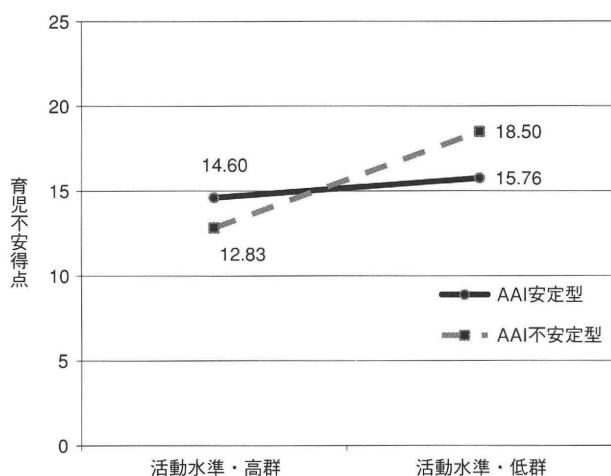


図1 AAI群と活動水準の高低群による育児不安得点の交互作用結果

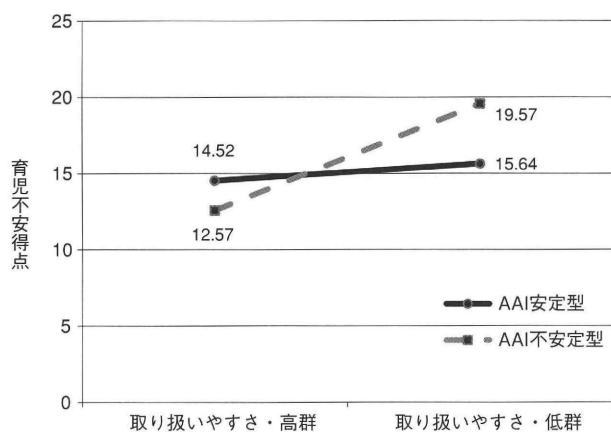


図2 AAI群と取り扱いやすさの高低群による育児不安得点の交互作用結果

に、また不安定型で子どもが取り扱いやすい場合より取り扱いにくい場合に、育児不安が有意に高くなった(図1・2)。

交互作用が有意でなかった項目において主効果を確認したところ、“見知らぬ人や状況への恐れ”が強く、“味覚へのこだわり”があり、“リズムの規則性”が少ない子どもの母親の方が、育児不安が有意に高かった($F(1, 60) = 9.44, p < .01$; $F(1, 60) = 7.19, p < .05$; $F(1, 60) = 7.83, p < .01$)。

IV. 考 察

1. 愛着表象の異文化間比較と他変数との関連

本研究の対象者におけるAAI分類は、愛着離脱(Ds)型が20%弱、安定自律(F)型が80%弱、とらわれ(E)型と未解決(U)型がそれぞれ約2%であった。欧米圏の母親を対象としたメタ分析では、Ds型16%、

F型55%、E型9%、U型その他が19%であった¹⁹⁾。数井ら²⁰⁾は日本の母親50名にAAIを実施し、Ds型20%、F型66%、E型6%、U型が8%と報告している。本研究では欧米に比較してE型、U型の比率が低く、F型が多いという数井らと類似した傾向が認められた。F型が多い理由として、日本社会では成人した後にも自身の親との近接居住することが多く、特に娘は出産前後において生活のサポートや子どもの世話を手伝ってもらう機会が増加するため、親への感謝や過去の振り返りが進み、親に関する愛着表象が変化する可能性がある。加えて、今回の調査対象である母親の養育環境が相対的に安定していたことが推測される。E型が少ない理由としては、“親へのとらわれによって生じる怒り”がE型の大きな特徴とされるが、日本人は比較的怒りを顕わにしにくい文化特性を有するためと考えられる。また、U型の特徴の一つは死者が生きているかのような語りであるが、日本では生まれ変わりや虫の知らせといった宗教観が一般的であり、U型の判定の際には欧米との文化差について考慮する必要があるだろう。

AAIと産後6か月時のソーシャルサポートとの関連については、不安定型より安定型の女性で多くのサポートが認識されていた。先行研究でも、カップル間の愛着と、同時期に測定された一般的なサポートの認識との関連が報告されている^{21,22)}。しかし、これまで妊娠期の愛着表象と出産後のサポートとの関連については報告がみられず、今回の結果でAAIが不安定型であると他者のサポートを得られにくい、あるいは少なく見積もりやすいことが明らかとなった。

2. 母親の育児不安と愛着表象、乳児の気質に関する検討

AAIの安定・不安定型を気質と育児不安の媒介要因として分散分析を行ったところ、子どもについて見知らぬ人や状況への恐れが強く、味覚へのこだわりがあり、生活リズムが不規則であると評価した母親の育児不安が有意に高かった。Noverら²³⁾は、夜泣きなどの睡眠に関する問題が、母親の不安と強く関連することを指摘しており、Sugawaraら⁶⁾は、RITQによる6か月時の“生活リズム”と母親の抑うつ得点との間に負の相関を見出している。対人接触や生活リズムなどの日常的生活場面において育てにくいとされる子どもの行動特徴が、母親の不安を高めると考えられる。

次に、交互作用の結果より不安定型において、“活

動水準”が低い、あるいは“取り扱いにくい”気質と評価した場合に、育児不安が高くなった。Sugawara ら⁶⁾は、6 か月時の RITQ による“フラストレーション・トレランス”（本研究の“取り扱いやすさ”に該当）と出産後の母親の抑うつ得点との間に正の相関を見出しており、本研究でも不安定型の母親に関しては同様の結果を示した。

以上のように、育てにくい乳児の気質と育児不安との関連が明らかになった。また、愛着表象の不安定型において、活発な行動を示さない、あるいは扱いが難しいと感じる乳児の気質と母親の精神的健康との間に交互作用が認められた。不安定な愛着を持つ母親にとって、乳児が「食べたり飲んだりする間よく動く」、「眠くなったときでも、話しかけられたり、あやされたりすれば、おとなしくなる」などの親子の活発な相互作用が生じにくい場合、育児不安がより強まった。

一方、安定型は不安定型よりも子どもの気質の認知による影響を受けることはなかった。その理由として、安定型の母親は子どもの個性にそった応答性²⁴⁾を働かせることにより、育児不安が喚起されにくいと考えられる。また、安定型の愛着表象がソーシャルサポートの高さと関係しており、愛着表象だけでなくソーシャルサポートも育児不安に対する間接的な防御因子となることが想定される。

3. 本研究の意義と課題

今回の結果より、養育者に対する子育て支援に関して、以下の2点を示唆できる。

第一に、支援の際に養育者自身の愛着パターンを把握することの重要性が挙げられる。不安定型の母親については抑うつ傾向が高く²⁵⁾、子どもの気質だけでなく日常生活全般において精神的に不安定となりやすい。不安定型の語りは、養育者との関係の想起において過度に防衛的、あるいは過覚醒になるのが一つの特徴である。そして、他の重要な対人関係においても同様の方略を繰り返す傾向にあるため、子ども自身の愛着も不安定になりやすい²⁶⁾。このような世代間伝達を防ぐために、母親が自他の心的状態を理解し一貫したやり方で心的状態を観察する心構え（内省機能）を持つことによって、子どもの安定した愛着の発達を促進させる²⁶⁾。Fonagy ら²⁷⁾は AAI を用いて内省機能を測定しており、心理的援助における見立てや目標設定におけるアセスメント・ツールとしての利用について示

唆している。

第二に、養育者に対するソーシャルサポートの重要性が挙げられる。具体的には、子どもの気質の個人差に関する情報や知識、具体的に生じやすい問題行動や対処方法についての心理教育を行うことによって、養育者の育児負担感を軽減できる²⁸⁾。また、養育者が気軽に子どもを預けて気分転換できるような、社会的なサポート体制の整備が望まれる。さらには、母親自身による気質評価には主観的な要素が含まれる²⁹⁾ことから、子どもの行動に関する母親の認知と援助者の観察内容とのズレについて取り上げていくことが有効であろう。今回の結果より、不安定型の養育者は、子どもの問題で悩んでいても周囲への相談に抵抗感を抱きやすく、相談機関においても保健師や相談員などとの関係作りが難しいことが予想される。そのため、養育者への直接的な援助だけでなくその家族や地域住民などの社会資源を活用しながらのネットワーク作りやチームによる連携が求められる。

ただ、本研究の限界として、縦断的なデータを効率よく得るために都市部に所在する大学病院での調査となり、対象者が比較的高学歴で人数も不十分であった。そのため、今後は複数の場所で臨床群を含めた調査を実施し、臨床的介入についての示唆を得る必要がある。

最後に、愛着理論の視点による養育者とその子どもに対する心理的援助に関しては、養育者の内省機能や感受性の発達促進を目的として、または親子相互作用の改善、環境調整を目標として短期的・長期的な効果が検討されている²⁷⁾。欧米では AAI に関して臨床面での応用が進んでいるが、日本においても養育者の愛着表象の臨床的介入やアセスメント研究についてのさらなる蓄積が期待される。

長年にわたり縦断調査に参加いただいた研究協力者の皆様、調査に加わったスタッフに感謝します。

本研究の一部は日本発達心理学会第23回大会において報告した。なお、本研究をまとめるにあたり文部科学省科学研究費（若手研究（B））の補助を受けた。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 菅原ますみ. 子育てをめぐる母親の心理. 東洋, 柏木恵子編. 社会と家族の心理学（流動する社会と家族）. 京都：ミネルヴァ書房, 1999：47-79.

- 2) Boyce P, Hickie I, Parker G. Parents, partners or personality ? : Risk factors for post-natal depression. *J Affect Disord* 1991 ; 21 (4) : 245-255.
- 3) Gotlib IH, Whiffen VE, Wallace PM, et al. Prospective investigation of postpartum depression : Factors involved in onset and recovery. *J Abnorm Psychol* 1991 ; 100 (2) : 122-132.
- 4) O' hara MW, Zekoski EM. Postpartum depression. Kumar R, Brockington IF, eds. *Motherhood and mental illness 2*. Cambridge, US : Cambridge University Press, 1986 : 17-63.
- 5) Honjo S, Mizuno R, Ajiki M, et al. Infant temperament and child-rearing stress : Birth order influences. *Early Hum Dev* 1998 ; 51 (2) : 123-135.
- 6) Sugawara M, Kitamura T, Toda MA, et al. Longitudinal relationship between maternal depression and infant temperament in a Japanese population. *J Clin Psychol* 1999 ; 55 (7) : 869-880.
- 7) Bowlby J. *A secure base : Parent-child attachment and healthy human development* NY, US : Basic Books, 1988.
- 8) Collins NL, Feeney BC. A safe haven : An attachment theory perspective on support seeking and caregiving in intimate relationships. *J Pers Soc Psychol* 2000 ; 78 (6) : 1053-1073.
- 9) Rholes WS, Simpson JA, Campbell L, et al. Adult attachment and the transition to parenthood. *J Pers Soc Psychol* 2001 ; 81 (3) : 421-435.
- 10) Priel B, Besser A. Adult attachment styles, early relationships, antenatal attachment, and perceptions of infant temperament : A study of first-time mothers. *Pers Relatsh* 2000 ; 7 (3) : 291-310.
- 11) Pesonen A, Räikkönen K, Strandberg T, et al. Insecure adult attachment style and depressive symptoms : Implications for parental perceptions of infant temperament. *Infant Ment Health J* 2004 ; 25 (2) : 99-116.
- 12) Fraiberg S. The development of human attachments in infants blind from birth. *Merrill Palmer Q* 1975 ; 21 (4) : 315-334.
- 13) Main M, Goldwyn R. Adult attachment scoring and classification system. Unpublished manuscript, University of California, Berkeley, Department of Psychology, 1984.
- 14) 金子一史, 野呂健二, 田中伸明, 他. 母親の抑うつと母親から子どもへの愛着に関する縦断研究. *児童青年精神医学とその近接領域* 2008 ; 49 (5) : 497-506.
- 15) Fonagy P, Steele H, Steele M. Maternal representations of attachment during pregnancy predict the organization of infant-mother attachment at one year of age. *Child Dev* 1991 ; 62 (5) : 891-905.
- 16) Nagata M, Nagai Y, Sobajima H, et al. Maternity blues and attachment in mother of full term normal infants. *Acta Psychiatr Scand* 2000 ; 101 : 209-217.
- 17) Carey WB, McDevitt SC. Revision of the infant temperament questionnaire. *Pediatrics* 1978 ; 61 : 735-739.
- 18) Sasaki Y, Mizuno R, Kaneko H, et al. Application of the revised infant temperament questionnaire for evaluating temperament in the Japanese infant : Creation of an abridged Japanese version. *Psychiatry Clin Neurosci* 2006 ; 60 (1) : 9-17.
- 19) van IJzendoorn MH, Bakermans-Kranenburg MJ. Attachment representations in mothers, fathers, adolescents, and clinical groups : A meta-analytic search for normative data. *J Consult Clin Psychol* 1996 ; 64 (1) : 8-21.
- 20) 数井みゆき, 遠藤利彦, 田中亜希子, 他. 日本人母子における愛着の世代間伝達. *教育心理学研究* 2000 ; 48 (3) : 323-332.
- 21) Collins NL, Feeney BC. Working models of attachment shape perceptions of social support : Evidence from experimental and observational studies. *J Pers Soc Psychol* 2004 ; 87 (3) : 363-383.
- 22) Kobak RR, Hazan C. Attachment in marriage : Effects of security and accuracy of working models. *J Pers Soc Psychol* 1991 ; 60 (6) : 861-869.
- 23) Nover A, Shore MF, Timberlake EM, et al. The relationship of maternal perception and maternal behavior : A study of normal mothers and their infants. *Am J Orthopsychiatr* 1984 ; 54 (2) : 210-223.
- 24) van IJzendoorn MH, Juffer F, Duyvesteyn M. Breaking the intergenerational cycle of insecure attachment : A review of the effects of attachment-

- based interventions on maternal sensitivity and infant security. *J Child Psychol Psychiatry* 1995 ; 36 (2) : 225-248.
- 25) Pearson JL, Cohn DA, Cowan PA, et al. Earned- and continuous-security in adult attachment : Relation to depressive symptomatology and parenting style. *Dev Psychopathol* 1994 ; 6 (2) : 359-373.
- 26) van IJzendoorn MH. Adult attachment representations, parental responsiveness, and infant attachment : A meta-analysis on the predictive validity of the Adult Attachment Interview. *Psychol Bull* 1995 ; 117 (3) : 387-403.
- 27) Fonagy P. The significance of the developmental of metacognitive control over mental representations in parenting and infant development. *J Clin psychoanal* 1996 ; 5 (1) : 67-86.
- 28) 水野里恵. 乳児期の子どもの気質・母親の分離不安と後の育児ストレスとの関連 : 第1子を対象にした乳児期の縦断研究. *発達心理学研究* 1998 ; 9 (1) : 56-65.
- 29) Bates JE, Bayles K. Objective and subjective components in mothers' perceptions of their children from age 6 months to 3 years. *Merrill Palmer Q* 1984 ; 30 (2) : 111-130.

[Summary]

This study examined the relationship between infant temperament and child-rearing anxiety, the influences of attachment representation in pregnancy on the relationship, and the relationship between maternal attachment representation and perceived social support. The Adult Attachment Interview (AAI) was conducted on 65 pregnant women, and a questionnaire was given to them during pregnancy and six months after delivery. A secure-attachment mother receives higher levels of social support in her postnatal periods than does an insecure-attachment mother. A relationship between child-rearing anxiety and a child's fear of strangers and strange situations, sensitivity to food, and irregular rhythmicity was recognized. Furthermore, the results suggest that for an infant's low activity level and low manageability, an insecure mother displays greater child-rearing anxiety than a secure mother. When a secure attachment mother perceived her infant's difficult temperament, it was not necessarily related to child-rearing anxiety, and it was shown that secure attachment could be a protective factor. Finally, we discuss how a mother and her family who experiences child-rearing anxiety could be provided psychological help in view of the maternal attachment representations.

[Key words]

maternal attachment representation,
child-rearing anxiety, infant temperament,
longitudinal study